

國學院大學學術情報リポジトリ

大分県方言依頼談話における配慮表現の世代差：
切り出し・断り・受諾の表現：
特集多様化する日本語研究の現在

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉村, 隆夫, Sugimura, Takao メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000427

大分県方言依頼談話における 配慮表現の世代差

一切り出し・断り・受諾の表現—

杉村孝夫

はじめに

会話が成立するためには単に単語や文法を知っているだけでは不十分である。単語・文法知識に加えて社会・文化に関する知識を身につけた上で言葉のキャッチボールができなければスムーズな会話を実現できない。自分と相手との対人関係を把握し場面や内容に応じた配慮の表現を行う必要がある。その配慮の表現にも地域差や年代差などが見られる⁽¹⁾。

大分県で収録したロールプレイ会話⁽²⁾では対話の相手に対してどのような配慮が行われ、表現されているか、談話の場面ごとにパターンを見出し、具体表現を分析したい。

特に相手に対する働きかけの現れる依頼の談話における、切り出し、状況説明、依頼、断り、再度の依頼（説得）、受諾、謝罪や謝辞などの表現、あいづちの仕方などを明らかにしたい。本稿では紙数の関係から切り出し、断りと受諾のパターンと表現を取り上げる⁽³⁾。これらに関する先行研究には清水他（2011）、日高（2014）、尾崎（2014）、岸江（2018）などがある。ここでは、配慮表現を、「聞き手に悪い感情を持たないようにするために使う表現（野田2014）」と捉えて考察を進める。

第1節 調査の概要

参考文献に示した松田美香（2018）『大分県方言談話の配慮表現を中心とした地域差・世代差・性差の研究』を参考に調査の概要を示す。

a. 調査の目的

大分県内における方言談話の地域差・世代差・性差を見ることを目的とする。その際、言語コミュニケーション上重要な要素である（対人）配慮表現を中心に

比較する。

a.1 場面設定

配慮表現が出現しやすい「働きかけのある」言語行動を設定した。ここでは「体育祭の審判を交代してもらうことを依頼する場面」を取り上げる。

b. 調査方法

ロールプレイ調査：①同じ世代の友人・知人⁽⁴⁾の男2名、女2名が、男Aと男B、女Aと女B、男A女B、女A男Bのペアで会話を行う。②それぞれ4組のペアに同じ調査票を使い、ロールを踏まえながら即興で会話してもらう⁽⁵⁾。③調査中の2名が会話する間、他の2名は別室で待機。AとBの調査票は互いが見せ合わないようにする。④録音直後に、話し手たちに日常的な会話同様であることを確認した⁽⁶⁾。

c. 調査対象者（話し手）

大分市、竹田市、日田市（または隣接する市町村）それぞれの土地生まれで、他所で2年以上居住したことの無い男女。高年層（70歳前後）、大学生（20歳前後）、中学生（13歳前後）の男女2名ずつ。

d. 調査票（ロールカード）場面：「体育祭」

A側

「朝の場面です。あなたは、町内体育祭の審判になっていましたが、直前になって、体調を崩し（腕が上がらない等）辞めることになりました。自分の代わりに探しましたが、なかなか引き受けてくれる人がいません。そこで、体育祭の前日の朝、Bの家に訪ねて行き⁽⁷⁾、審判になってもらおうとお願いします。

Bが引き受けてくれたら、Bの家から立ち去ります。

その時のやりとりを実演してみてください。」

B側

「Aさんが、朝、町内体育祭の審判を代わりにしてくれないかと、あなたの家に頼みに来ます。あなたは、最初は何か理由をつけて断ってください。Aさんは諦めずに再び頼みますので、話を聞いて、最後には引き受けてください。

その時のやりとりを実演してみてください。」

e. 調査地点の位置と人口密度



第2節 切り出しのパターン

朝の挨拶が済んで依頼の本題部⁽⁸⁾に入るとき、様々な切り出しのパターンが見られる。大分市高年男性同士の会話を見てみよう。

(1) 大分市高年男 (A) → 男 (B)

<開始部>

0001A オハヨーゴザイマース。

0002B ハーイ。

<本題部>

0003A Bサン、タノミガ アッチ キタンジャケンドー。

0004B ハイ ハイ。

0005A ジツワ チョーナイノ タイクサイノ オ シンパンニ ナッチョッタ
 ンジャケドー、

0006B ハー。

0007A ナンカ キノー ウデオ ケガシチナー。

0008B アラ アラ マー。

(後略)

0003Aに見られる「頼みがあって来たんだけど」は「依頼予告」という切り出しのパターンである。切り出しには5つのパターンが見られる。以下に例とともに見ていこう(発話をそのままカタカナで表記し、わかりにくいと思われるところのみ共通語訳を付した)。

(a) 依頼予告

(1) の部分 Bサン、タノミガ アッチ キタンジャケンドー。(大分市高年

男→男)

(a.1) 謝罪+依頼予告

(2) アサ ハヨカラ タイヘン スンマセン チョット オネガイニ アガリマシタ。(竹田市高年 女→女)

(β) 発話許可求め

(3) ハイ チョット イーカナー↓。(大分市大学生 男→女)

(4) エッ キョー キュー チョット イマ ハナシ イー↑ (大分市大学生 女→男)

(β.1) 依頼予告+発話許可求め

(5) アノナー チョット キョー タノミニ キタンヤケド チョット キーテ クレルカナー。(竹田市高年 女→男)

(γ) 先行発話

依頼実現のための条件づくりをするのが「先行発話」である。

(6) アノサー オレ アシタノ タイクサイノ シンパンヤン。(審判じゃない?) (竹田市中学生 男→男)

(γ.1) 被依頼者の先行発話

被依頼者が依頼者の用件を察して問いかける発話を「被依頼者の先行発話」とした。

(7) オハヨー ドーシタン。(大分市中学生 男→男)

(δ) 直接事情説明から始める

(8) アノー キョー タイクサイノ シンパンノ カカリニ ナッチョットヤケド チョット タイチョーガ トトノワンケン チョット イケンカモシレンケン チョット カ カワリニ ヤツテクレンカナー↓。(大分市中学生 男→女)

(ε) 相手の様子伺い

(9) 日田市高年 女 (A) →女 (B)

003A Bチャン キョー ナニゴツ ショルカエ↑ (今日どんなことしているの?)

004B ンー イツモノ ヨーニ ハナノ シゴトー シヨリマス。

<相手の事情を斟酌しつつ事情説明に入る>

005A アーソーネ イマ イソガシーコトヤローケドネー アンネー アンワタシネ ウンドーカイノ アノー シンバンオ タノマレチョットンテ (頼まれていたんだよ)。

依頼は相手に負担をかけることであり、挨拶のあとすぐに事情説明、そして依頼へと進むことは避けられる。上に見たように様々な切り出しの表現を用いてスムーズに依頼に至り、また、相手に受諾してもらうよう働きかけている。ロールプレイであるから「相手が引き受けてくれたら立ち去る」というロールカードから「受諾される」ことはわかっており、その点で現実生活での依頼とは異なる。現実生活では依頼は受諾されるかどうかかわからないので緊張感はさらに高まり、配慮の表現も変わるかもしれない。あくまでもロールプレイで観察された表現である。

これら、切り出しのパターンに世代差や男女差は見られるか。出現する数量で比べてみる。

切り出しの機能	中学生	大学生	高年	男性	女性
依頼予告	2	5	7	8	5
許可求め	0	2	1	1	1
謝罪	0	1	1	0	2
先行発話	4	1	0	4	1
(被) 先行発話	1	1	0	2	0
事情説明	5	2	4	3	8
様子伺い	0	0	1	0	1

(a) 太字で示したように、依頼予告は年代が高いほどよく現れる。(b) 先行発話は中学生によく現れる。学校生活を毎日ともにし、お互いの状況を知りあっている仲なので切り出しではそれを確認することから情報を共有し、事情説明に移る手法がとられていると考えられる。(c) 「直接事情説明から始める」は中学生に多いが高年にも多い。中学生が「許可求め」や「謝罪」などの前置きなく「先行発話」やこの「事情説明」を切り出しとするのは想定範囲内であるが、高年層も意外に多いのは何故であろう。高年は「依頼予告」で始めるか、そうでなければ「事情説明」で始めることが多い。(d) 様子伺いは高年女性に1例のみである。相手の様子を伺い、依頼をしても大丈夫か感触を得ることはありそうなことである⁽⁹⁾。(e) 男女の数値の違いはあるが何とも言えない。

第3節 断りのパターン

36組の談話の依頼表明の直後に現れる被依頼者の「断り」のパターンは次の通りである⁽¹⁰⁾。

(a) すぐに「断り」が現れるのは3例のみである。ただし、その後には理由が続くものが二つ、依頼回避要求が続くものが一つある。

- (10) ソナ シンパントカ デキンワ (断り)。シタコト アラセンニ (理由 (大分市高年 男→女))
- (11) アー ソーナ。アンタガ デケンノ オレ シーツチャーノワ ナカナカ コー モンダイジャケド (俺にしろというのはなかなか コー 問題 だけど (断り)) オー アレカナー ホカニ タノム シワ オランノカナ ↑ (人はいないのかな?) (回避要求) (竹田市高年 女→男)
- (12) ウチ (私) ムリ (断り)。ソノヒ ヨージガ ハイッチャーキ (入っているから) (理由)、ムリ (断り)。(日田市中学生 女→女)
- (β) 「断りの理由」の後に「断り」が現れるもの。これは全部で13例あり、最も多い。理由の内容は「未経験、先約有り、用事あり、突然なので、体調不良、負担大」など様々である。
- (13) エー タイクサイノ シンパンツテ ドンナ コト スルンカ シランシ (理由) アンタ{笑}ワタシガ デキルハズ ナイワエー (断り)。(大分市高年 女→女)
- (14) シー エー デモ オレモ ジュンピガ アルケン (理由) デキルカ ワカラン ワカランチャーカ ヤリ ン デキンチャンネー (断り)。(日田市中学生 女→男)
- (β.1) この中には、「謝罪」が先行するものもある。
- (15) ゴメン (謝罪) ソノ タイクサイノ ヒニ (A ハイ) チョット ソフボノ イエニ ヨージガ アツテ イカナクテ イカナクチャ イケナクテ (理由) (A アー アー) チョット (A アー) デキナイカナー (断り)。(大分市大学生 男→男)
- (γ) 「理由」のみで直接の「断り」の表出がないもの。これも多く、全部で12例ある。
- (16) アー アシタ チョットネー チョット オヤト クマモト イカナイカンノヨネー (理由)。(竹田市大学生 女→男)
- (17) チョットネー テストベンキョーガ アツテサー (理由) (A クウー) チョット テストベンキョーセント (A オネガイシマス) ライシュー チヨ オレノ セーセキガ ムチャクチャ (理由)。(日田市大学生 女→男)
- (δ) 「依頼回避要求」が現れるもの。4例あるが、これは単独ではなく、「理由」や「断り」とともに現れる。(α) であげた以外の例は、
- (18) イキナリヤケン (理由) チョット ホカノ ヒトニ タノンデ (回避) (大分市中学生 女→男)
- (19) エー シンパンヤロー↑ (困惑) (A シンパン) シンパン エ ナンカ ホカニ ソノ オナジ シンパンニ ナッチョル ヒトトカワ オランノ↑ (回避) (中略) シー ンー ヤー デモ エー キメキルカナー (決められる かな) アレデショー コッチ コッチミタイナ カンジデ (A ンー

ンー ンー ンー) ヤラント イケンノヤロ↑ (理由: 負担大) (竹田市
大学生 女→女)

第4節 「断り」の表現形式

断りの表現形式を分類して出現数を世代で比較してみよう。

断りの表現	中学生	大学生	高年
直接の断り	4	1	2
間接の断り	0	0	1
希望形	0	1	0
心情表明	2	0	5
不可能推定形	2	2	3
断りの理由のみ	3	6	1
依頼回避	1	1	0
否定と呼応する副詞	0	0	1

(a) 「直接の断り、希望形、推定形、副詞」の前後に理由が現れるものも多い。

(b) 「直接の断り」は中学生が多い。(c) 「心情表明」は高年に多い。(d) 「断りの理由のみ」は大学生に多い。(e) 「副詞でいいさし」は高年に1例のみ。(f) 「間接の断り」以下の表現は何らかの形で和らげたものであるが、「依頼回避」以外は大学生・高年に多く、間接的断りの表現が成人に多いことを表している。

「断り」の表現形式は大きく分けると直接的なものと同接的なものがある。

(a) 直接的なもののうち直接の断り

「デキン」「ムリ」などと不可能なことを直接表す。

- (20) ソンナ シンパントカ デキンワ。シタコト アラセンニ。(大分市高年 男→女)
- (21) エー タイクサイシンパンツテ ドンナコト スルンカ シランシ アンタ{笑}ワタシガ デキルハズ ナイワエー。(大分市高年 女→女)
- (22) エー イキナリスギテ チョット ムリヤワー。(大分市中学生 女→女)
- (23) マジー チョット オレモネ タイイクサイノ アノ ジュンビガ アルキン (あるから) (理由) デキンチャン。(日田市中学生 男→男)
- (24) ウチ (私) ムリ。ソノヒ ヨージガ ハイッチョーキ (入っているから) ムリ。(日田市中学生 女→女)

以下は間接的な断りである。

(a.1) 「間接の断り」

「問題がある」と間接的に断るもの

- (25) アー ソーナ アンタガ デケーンノ オレ シーッチューノワ ナカナカ コー モンダイジャケド。(後略) (竹田市高年 女→男)

(β) 心情表明形

(β.1) 「断りたい」と希望を述べるもの

(26) ウーン ワタシ シンパン ドーユー コト スルカ ワカラシ(Aアー
アー) チョット デキレバ コトワリタイカナー。(大分市大学生 男→女)

(β.2) 依頼を受けたことによる「困った」心情を表したのもの。中学生では「めんどうかい」と表現される。

(27) アー ハー ハー ワタシワ キョー ウーン ソノヒワ ヒトト アウ
ヤクソクオ シチオルケンナ チョット ソレワ コマリマスナー。(大分
市高年 女→男)

(28) ハー キューニ イワレテモ コマルンジャガナー。(竹田市高年 男→
男)

大分市高年男性の「コマリマスナー」は相手に対する批判的表現、竹田市の「コマルンジャガナー」は自分の心情を表す。

(29) マジデ エ メンドクセーンヤケド。(竹田市中学生 男→男)

中学生の「メンドクセー」は「するのが煩わしい」という心情を表明したもので、定型句のように他の場面でもよく現れる。

(γ) 間接形

間接的なものには「不可能なことの推定形」「断りの理由のみ」がある。

(γ.1) 話し手の判断だが、推定形を用い、よりやわらげて表現

(30) 大分市大学生 男 (A) →男 (B)

0014B ゴメン ソノ タイクサイノ ヒニ

0015A ハイ。

0016B チョット ソフボノ イエニ ヨージガ アッテ イカナクテくいなおし> イカナクチャイケナクテ (行かなければならなくて)

0017A アー アー。

0018B チョット

0019A アー。

0020B デキナイカナー。

(31) ハー ワタシ アノー ソーイッタコト シタコトガ ナイキ サー デ
キルカ ワカラシ。(日田市高年 男→女)

(γ.2) 断りの理由のみを示して間接的に断る

(32) 竹田市中学生 女 (A) →女 (B)

0006B チョ ウチ アタシサ アノー チョット アソバ アソブ ヤクソク
ガ アルンヨー。

0007A マジデ↑

0008B ウン。

0009A エー エー エ ド ドーシテモ ムリー↑

0010B タブン ムリヤトオモ。

0006Bが「他の予定がある」ことを表出することによって断りの表現となっている。それは、次の0007Aで、Aが「断られた」と解釈して発した「マジデ↑」によってわかる。0010BはAの説得に対して答えた「推定形」である。

(δ) 聞き手の解釈にゆだねた「否定と呼応する副詞でいいさす」もの

(33) 日田市高年 女 (A) → 男 (B)

0007A (前略) アノー シンバンノ シゴト Bサン ウケテ イタダケンヤ
ローカート。

0008B ソラー イキナリジャ コマルバイ。

0009A エー{笑} Bサンモネー イソガシーデショーネー↓

0010B ウン イソガシー。

0011A ソーデスカ アン ソーケド ワタシモネ ナカナカ シトズキアイガ
アンマリ ジョーズジャンイモンヤケ ホカン シトニモネ ナカナカ
タノミキランデオルケド マー Bサンノ ホーガ

0012B マー アンタ キンジョトナリケド アンター ナカナカネー。

0013A ンー マー Bサン ソゲン イワンデ イージャンイデスカ ヒゴロ
ン ツキアイガ アルケ。

0008Bは依頼を受けて(β)「困る」と心情を表明して断るものだが、0012Bは、Aの再度の依頼(説得)を受けて「なかなか」の後には(引き受けるわけにいかない)が続くと相手に解釈させようとするが、「なかなか」だけでことばをいいさしている。0013Aはそれを「断り」と解釈した再度の依頼補強(説得)の表出である。

これらは(α)から(δ)に進むにつれて「聞き手の心情を損ねまいとする心配り」が徐々に大きくなるといえよう。「断り」を表出するかしないか、「断り」を表出するにしてもどのレベルの表現を選択するか、「配慮」の働きによってさまざまな「断りのパターン(表現形式)」が実現している。断りの場面は依頼談話のなかでももっとも配慮が要求される一幕といえよう。

第5節 受諾のパターン

役割カードのB側には「最初は何か理由をつけて断ってください。Aさんは諦めずに再び頼みますので、話を聞いて、最後には引き受けてください」とある。依頼の表明(A)→断り(B)→再度の依頼(説得)と進んできた会話に続いて、いよいよBは受諾するわけであるが、そのパターンを見ていこう。まず、受諾のパターンの出現数を世代で比較してみよう。

	中学生	大学生	高年	男性	女性
すぐに受諾	7	3	3	6	7
理由+	1	3	4	6	2
暗示+	4	3	1	3	5
暗示+理由+	0	1	4	2	3
意向+	0	2	0	2	0

(a) 「すぐに受諾」は大学生や高年にも現れるが中学生に多い。大学生の3例のうちやや強気な依頼者に対するものが2例あり、高年の3例は竹田の同じ女性の2例と日田の強気な依頼者に対して現れる。このような場合を除いては主に中学生に現れる。

(b) 「暗示」は中学生にも現れるが大学生、高年に多い。暗示と理由の両方が現れるものを別項にしたがそれぞれを単独で理由か暗示に分けて集計すればその数値はさらに高くなる。以上のように世代差は見られるが、(c) 男女差については何とも言えない。

では、具体表現に即して用例を見ていこう。

(a) すぐに受諾を表明する

依頼者の事情説明追加（他に引き受け手がないなど）、負担軽減の提示、補償（アイスクリームをご馳走する）などの説得に応じて受諾をすぐに表明する。

(34) 大分市中学生 男 (A) →男 (B)

0011A ヤケド シンパンチ イッテモ アノー ピストル ウッタリスルダケ
ヤケン タブン カンタンヤト オモーケン モシ デキレバ (間) オ
ネガイ (間) シマス。

0012B ウーン↓ (間) ワカッタ イーヨ ジャー シンパン カワリニ ヤル
ワ (受諾)。

(間) が示すように考える時間はあるものの、他のことは言わずにすぐに受諾している。

(35) 竹田市中学生 男 (A) →男 (B) 依頼表出の部分から見ていく。

0015A Bヤツテクレン↑

0016B マジデ エ メンドクセーンヤド。

0017A ヤ オネガイ コ コンド ナンカ オゴルケン (補償)。

0018B ホ ホカノ ヒトワ↑ ホカノヒト (依頼回避)。

0019A エー ヤケン ミンナ メンドクセーチューンヨ。

0020B {笑}ヤローナ。

0021A {笑}ヤケン モー Bシカ オランケンサ B ヤツテヨ (説得)。

0022B アー ンー ジャー イーヤ ヤツチャー (受諾)。

0023A マジデ。

(36) 大分市大学生 女 (A) → 女 (B) Aが再度頼むところから。

0019A (前略) アノー フツニ センセータチト イッショニ ナツテ レンシューモ デキルケン モシ チョット ジカンガ アレバ タノミ タインヤケド。

0020B ジカンガ アレバカ ンー ドーヤロー (再度の断り)。

0021A ンー ヤ ムリヤッタラ イーンデー (無理だったらいいよ)。

0022B ンー マ ンー ナントカ ジカン ツクル (受諾)。

(β) 受諾のための理由を述べてから受諾を表明する

「依頼者の体調が悪いなら仕方がないから」とか、「依頼者からの頼みだから」、「他に引き受け手がないなら仕方がないから」など、積極的に引き受けるのではなく、外的理由によってやむを得ず受諾することを表明する。そのことは、次の例に現れる「ショーガネー」という言葉が端的に表している。「ジョーガネー (ショーガナイ)」は高年層ばかりに4例現れる (シカタナイは大学生に2件)。

(37) 大分市高年 男 (A) → 男 (B) Aが依頼するところから。

0013A ホイデ モー アンタカテー (あなた方に) タノミ キタンジャガ ナントカ シンパンオ シチ クレンヤロカ。

0014B ナーニ ソレワ アンタ ワタシナー コドモン トコロニ イク ヤクソク シチョンノジャケドナー。

0015A アー マー コドモモ ダイジジャローケンド ヒトツ マー タイク サイン タメニ ホネ オッチ クレンヤロカ。

0016B エー コラ マタ コマッタ モンジャンナー。

0017A エー マー ナントカ タノムワ モー。

0018B ウーン。

0019A オイシャニ イカナ ワリーモンジャケ モー ドーシテン ニゲラレンノジャワエ。

0020B マー ホカニ ナカリヤ モー ショーガネーナー (理由)。

0021A //エー エー。<//は、直前の発話との重なりを示す>

0022B ヤッチ ミルカナ ハイ (受諾)。

(38) 竹田市大学生 男 (A) → 男 (B) Bが断るところから。

0018B デモ オレモ アシタ アノー Cトサ クマモト イク ヨーガ アルケンサ チョット

0019A //イヤ。

0020B ソッチ イク ヤクソク シテ シマツチョンノヨ。

0021A タイクサイノ マエニ↑

- 0022B ウン。
0023A エッ ヤ ソコー ホントニ Bシカ シンライ デキンカラ マジデ
ホントニ。
0024B ウーン。
0025A ガチ (本気で) チョッ (ちょっと) カンガエテ マジ (本当に)。
0026B マ ソノ シンパンノ ハナシワ オレモ キートルケン、 ジャー
ソーユー リユーナラ ホカニ オランヨーヤケン (理由) マー オレ
ワ
0027A //マジ↑
0028B ソノ Cト クマモト イク ヨーワ エー コトワリオ イレテ オ
クケン ソッチニ オレワ ジャー アシタ イクケン (受諾)。

(γ) 受諾の意向を暗示する発話があり、依頼者の再依頼 (説得) の一押しで受諾を表明する

いったん断ったために、手の平を返すように受諾するわけにはいかず、受諾を暗示させる発話をして依頼者がそれに応じてもうひと押しすると受諾を表明する。受諾の暗示とは、受諾をせざるを得ない状況を作り出すことである。

(39) 大分市高年 女 (A) →女 (B)

- 0022B ヘー ジャーケド アンタ コンナ ダイジナ ソンナ シンパントカ
ウケテカラ ナカナカ ヤクニ タタンカッターラ ミンナニ メーワク
カケルナー (断り/暗示)、
0023A //イヤ ソンナコタ、
0024B ホントニ イーンヤローカ↑ (暗示)
0025A ナイ ナイ。デキル デキル。
0026B ヘー ホントー。
0027A ウーン。
0028B ハー ドンナ コト スルカ シランケド アンタ マー。{笑} (暗示)
0029A {笑}
0030B マー セツカク Aサンガ ソー ユーテ クルンナラ (理由)
0031A ウン ホカン シニ タノマレン アンタヤッターラナ モー スグ デ
キルヤロト オモテ キタンヤ。
0032B マー ソンナ コト ナイケド マー ミンナガ シヨンノ ミテカラ
(受諾条件)、
0033A ウン。
0034B ホンナ (受諾)。
0035A ソー ソー ソー ボチボチナ。
0036B ンー。

0022Bは、断りなのか受諾の意向の暗示なのか判断に迷うところである。0024B、0028Bは受諾の意向の暗示とみてよいだろう。ここでは受諾の意向の暗示だけでなく受諾の理由も表出している。また、この談話では、0034B「ホンナ」だけで、はっきり「引き受けた」とか「やる」という表現はないが、これで審判交代を受諾しているのである。

(40) 竹田市高年 男 (A) → 男 (B)

0026B アー ニワ オミーケド (荷は重いけど) マー アンタカラ イウル
リヤ ヒキウケンチュー ワケニモ イカンジャローカラ マ ソンカ
ワリ モ シトリノ シトニモ ヨー ハナシチヨッチ モラワント
メーワク カケルヨーナ コトニ ナッチャ

0027A //エー。

0028B ワリーカラ (暗示・受諾条件)。

0029A エー エー。

0030B ンー。

0031A // モー ソノ テンニ ツイチャーナ モー ジューブン ソノ シ
トト アノー ソーダンシタ ケッカ オタクニ オネガイニ キタ
ワケジャキ エー ソラ モー アノー モンダイ アリマセン。

0032B アー。

0033A ハイ。

0034B マー ホンナラ エー デクルカ ドーカ ワカランケド アンタカラ
イウルラ (理由) ヤッチ ミマシヨ (受諾)。

(41) 日田市大学生 男 (A) → 男 (B)

0040B ニ サンジカングライカナ。

0041A タブン ソ ソンナ カカラント オモーケ。

0042B ソンナ カカラン。

0043A デ マイ<「毎回」のいいさし> ズット デル ワケジャ ナイケン。

0044B ハイ ハイ ハイ。

0045A マ アイダトカデ ベンキョーシテ。

0046B アー テストベンキョーヤケンナ アー。<Bはテストが近いので交代できないと断っていた>

0047A (出るのは) イッシェン イッシェン。[笑]

0048B アー ソヤナ マー チョット ジャ カンガエテ (暗示)

0049A カンガエテ オッケ オッケ ゴメン ゴメン アリガト。

0050B イケルワ ウン ヒキウケヨ ジャー。(受諾)

0051A //アリガト。

0048Bではまだ暗示の表明だけだったのを、0049Aでは受諾と解釈し、謝罪や謝辞まで表明したために、0050Bで受諾を表明せざるを得なくなったと考えられる。

(γ.1) 受諾の意向を表明するもの

意向の暗示ではなく、はっきりと意向を表すもの。しかし、まだ受諾にまではいたっていない。

(42) 大分市大学生 男 (A) →男 (B)

0048B チョット モシカシタラ ヨテーオ ズラセテ <「ずらして」の方言形>

0049A ンー。

0050B カワリニ デキルカモ シレナイトワ イマ オモツテル (意向)。

0051A アー デキルカモシンナイ ↑

0052B ンー。

0053A ジャ ソントキ ヨカッタラ アノー カワリ ヤツテクレルカナ。

0054B ウン ソントキワ イーヨ (受諾)。

受諾の「理由」や受諾の意向、意向の暗示を表出するのは、「する」ではなく「なる」の表出であると言えよう。日本語は「する」の言語ではなく「なる」の言語であると言われる(池上1981)。例えば、車掌が電車のドアを「閉めます」ではなく、「ドアが閉まります」という。人が意志をもって動作や決意をするのではなく、自然に変化するという表現の仕方をする傾向がある。大学生・高年でこれらを多く表出するのは、自分の意志により審判交代を引き受けるのではなく引き受けざるを得ない状況をまず作り出し、その状況によって自然と引き受けることに「なる」という表現の仕方をしていると言えよう。自分の意思を表すのではなく、引き受けることになると、状況が変化するように表現するのも「配慮」の結果といえる。同じ理由・暗示でも大学生と高年での違いもある。日田市大学生や大分市大学生の例のように、大学生にはまだ、積極性が見られるが、高年になると一段と「状況づくり」をする傾向がある。高年と大学生の例でもみられるとおりである(暗示、理由の現れる高年と大学生のその他の例も下に一覧で示す)。中学生はすぐに受諾する傾向、大学生・高年は状況づくりをしてから受諾する傾向があり、これも年代差であると言えよう。

(43) 大分市高年 男→男

ホカニ ナカリヤ モー ショーガネーナー (理由) ヤッチミルカナ ハイ

(44) 大分市高年 男→女

アンタネー ソノ ケガ シタンナラ ショーガナイワナー (理由) ンー ワ
 タシデナー ヤクタツカ ミンナニ メーワク カケテモカエッテ アンー ミ
 ンナニネー モーシワケナイケド イーンカナ (暗示) ホント アノー ガン
 バッテ ヤッテミマス

(39) 大分市高年 女→女 前掲 (暗示・理由)

(45) 大分市高年 女→男

ホンナ アンタン ユーコトモ キーチョカント ワリーナー (理由) マー ナ
 ントカ ホンナ ヤッテ ミマショー

(46) 竹田市高年 男→男

アンタカラ イワレチ ナンデンカンデン ヒキウクルヨーナ コトニ ナルン
 ジャケンド (後略) (暗示)

<中略>

マー アンタカラ イワルリヤ ヒキウケン ワケニモ イカンジャローカラ
 (理由)

<中略>

マー ホンナラ エ デクルカ ドーカ ワカランケド アンタカラ イワルラ
 (理由) ヤッチ ミマショ

(47) 竹田市高年 女→男

ヘー マー Aチャンカラ ソゲー イワルラ センツチャー ワケ イキメー
 ナ エー (暗示)

<中略>

ホンナラ アンタノ ユー コッチャキ (理由) イチオー ヒキウクル コトニ
 シチ<後略>

(48) 日田市高年 男→女

ホカニ タノム シトガ アレバ タノンジ モライタイケド ナケラナ モー
 ショーガナイネ (暗示)

<中略>

アン デクルカ デキンカ ワカランケド ヒキウケチ ミマショー

(49) 日田市高年 女→女 (全談話後掲)

マー ソゲナ フーナラ マー シマタ ツカンキ(仕事にきりはないから) (理

由)

<中略>

マー ヤッテ ミロー ウホ<感嘆詞>

(50) 日田市高年 女→男

(日頃の付き合いがあるから) アー モー ショーガネーネー (理由) (A ウン)
ナラ マー イチオー ウケチ ミルカエ

(42) 大分市大学生 男→男 前掲 (意向)

(51) 大分市大学生 男→女

(やり方が紙に書いてあると言われて)ア ナラ ト デキルカナ ソレデ(理由)
<中略>

ンー ジャ ヤッテミル

(52) 大分市大学生 女→男

ソノ ニッターオ アケテ モラエバ カワリニ ンー ジブンガ オレガ デ
キルヨ (意向)

(38) 竹田市大学生 男→男 前掲 (理由)

(53) 竹田市大学生 男→女

エ ソッカ エ デモ マー アンマリ ソンナニ タノシカッタラ イーカ
ナー{笑} (暗示)

(54) 竹田市大学生 女→女

ソンナニ キオ ハランデモ イーカナ (暗示)

(55) 竹田市大学生 女→男

マ タイチョーガ ワルイノワ モー シカタナイケン (後略) (理由)

(41) 日田市大学生 男→男 前掲 (暗示)

(56) 日田市大学生 男→女

アー マ バイト カワレルツチャ カワレルカモ (暗示) (A ジャ オネガ
イシマス アリガトーゴザス) シカタナイ

おわりに

大分県内3地点における依頼の場面のロールプレイ会話を対象に、切り出し、断り、受諾の部分(ユニット⁽¹¹⁾)を切り取ってパターンを見てきた。パターン、表現形式には世代差があることがわかった。

「断り」でも「受諾」でも、単に断る、受諾するのではなく、より直接的なものから間接的なものまでいくつもの段階があり、それが年代差(未成年と成年)とも一定の関係を持っていることもわかった。

これらの部分(ユニット)以外に、切り出しに対応する談話の切り上げ(収束)や謝辞・謝罪についてもパターンが見出せるであろう。また、感情の表出やあいづちの現れ方も興味あるテーマである。今後の課題としたい。

また、談話の全体をそのまま対象に考察したかったが、難しく、部分を切り取っての考察をせざるを得なかった。できるだけ前後の文脈も示すようにしたが、靴の上から痒いところを搔いているような感じ、何か「生の会話」がよく見えない印象がまぬがれない。

そこで最後に日田市高年女性同士の会話の全体を示し、発話の機能の各場面のパターンの現れを時間の流れに沿って見ておこう。

発話番号 役割	方言音声の文字化	共通語訳	日田市高年 女Aと女B	
			発話の 機能A側	発話の 機能B側
0001A	ア オハヨーゴザイマース	あ、おはようございます。	挨拶	
0002B	オハヨーゴザイマス	おはようございます。		挨拶
0003A	B チャン キョー ナニゴツ シヨルカエ↑	Bちゃん、今日何をしているの？	情報要求 (切り出し)	
0004B	ンー イツモノヨーニ ハナ ノシゴトー シヨリマス	うん、いつものように花の仕事をしています。		情報提供
0005A	アー ソーネ イマ イソガ シーコトヤローケドネ アン ネー アン ワタシネ ウン ドーカイノ アノー シンパ ンオ タノマレチョツタンテ ソシタラ キノー ヒョット シタコトデネ アン チョッ ト ナバギオ カタゲヨツテ カラ アノー ミギウデガ アガラングトナツタンヨー	ああ、そうなの。今、忙しいことだらうけどね、あのね、あの、私ね、運動会の、あのう、審判を頼まれていたんだよ。そしたら昨日、ちょっとしたことでね、あの、ちょっと椎茸の原木をかついでいて、あのう右腕が上がらないようになったのよ。	相手の事情配慮 事情説明	
0006B	ン	うん。		あいづち

0007 A	ソレデ ナンカ ダレカ オ ランカネートオモテカラ ナンニンカ タノンデミタケ ド ナカナカ ヒキウケテク レルシトガ オランデカラネ コマッチョルンヤケド B チャン アンタ ワタシ ワ ルイケド ウケテモラエンヤ ローカトオモテ キタツチャ ケド	それで、なんか、誰かいない かねと思って、何人か頼んで みたけどなかなか引き受けて くれる人がいなくてね、困っ ているんだけど、Bちゃんあ なた、私、悪いけど受けても らえないだろうかと思ってき ただけど。	事情説明 依頼表明 (来訪目 的表示形 式)	
0008 B	アー ワタシモ イマ イチ パン イソガシー トキデカ ラ	ああ、私も今一番忙しい時で、		断りの理 由(忙しい) 1/3
0009 A	アー	ああ。	あいづち	
0010 B	シトデガ タリンデネー	人手が足りなくてね、		断りの理 由(事情 説明)2/3
0011 A	ンー	うん。	あいづち	
0012 B	ウン コマッチョルケド	うん、困っているけど。		断りの理 由(事情 説明)3/3
0013 A	ソーネ	そうなの。	応答	
0014 B	ウン	うん。		応答
0015 A	アタガタモ イソガシーカ ロートワ オモイナガラ キ タヤケドネー モー ホカ ニ タノム シトモ オラン シ ナンニンカニ タノンデ ミタケド Bチャン ドーデ ン ウケテモライタイトオモ イヨルケド [笑] オネガイ シマスー	あなた方も忙しかろうとは思 いながら来たんだけどね、も う他に頼む人もいないし、何 人かに頼んでみたけどBチャ ン、どうしても受けてもらい たいと思っているけど [笑]、 お願いします。	依頼補強 (相手の 事情配 慮、事情 説明追 加、押切 型依頼)	
0016 B	マー ソゲナフーナラ マー シマタ ツカンキ	まあ、そんなことなら、まあ 仕事のきりはつかないから		受諾理由 1/2
0017 A	ウン	うん。	あいづち	
0018 B	ウン ナントカ ワタシデ デキルナラ	うん、なんとか、私でできる なら。		受諾理由 2/2
0019 A	ウン ウン モー ソラー Bチャンナラ モー ジュー ブン デキルグライジャネ マー ウレシー ウケテクレ モラワレルカナ	うん、うん、もうそれはBチャ ンならもう十分できるよ。ま あうれしい、受けてくれ、も らえるかな？	適性の主 張感情の表 出念押し	
0020 B	マー ヤツテミロー ウホ	まあ、やってみよう、うほ(感 嘆詞)。		受諾
0021 A	ウン スイマセン	うん、すみません。	謝辞	
0022 B	ハイ	はい。		応答

0015A	ホンナラ ヨカッタ フンナ モー ワタシ アンシンシテ アノー ネ アノー ヨー ジョーデキマス	それならよかった。それなら もう私、安心して、あのう、ね、 あのう、養生できます。	感情の表 出	
0016B	ジョーブニワ デキントオ モーケド ナントカ ヤツテ ミローネ	上手にはできないと思うけ ど、何とかやってみようね。		へりくだ り
0017A	アン アン スイマセン ホ ンナラ タノンジョキマス	あん、あん、すみません。そ れなら頼んでおきます。	謝辞 依頼確認	
0018B	ハイ	はい。		応答
0017A-2	ヨロシユー オネガイシマス	よろしくお願いします。	依頼確認	
0018B-2	ハイ	はい。		応答
0019A	スイマセンネ	すみませんね。	謝辞	

注

- (1) 地域差、性差については松田（2018）に松田「大分県方言談話の地域差・世代差—申し出談話における配慮表現の地域差・世代差—」、杉村（2018a）「体育祭審判交代依頼談話における待遇表現の性差と世代差」がある。杉村（2018a）では、相手が同性の場合と異性の場合、異性に対する方が待遇度が高いことを明らかにした。また、この性差は世代を遡うごとに発達し、未成人（中学生）では未発達である。
- (2) 松田（2018）で報告した調査。審判交代依頼談話、ごみ当番（ラジオ体操当番）交代申し出の談話、道であった時の談話の3場面を収録したが、ここでは第1の場面を取り上げる。
- (3) 依頼のパターンと表現、性差については注1で取り上げた報告で考察した。
- (4) 同じ世代で実際に友人・知人である人に協力を依頼したが、中には顔を見知っている程度の場合もあり、高齢層では年齢差もある。しかし、「近所の親しい人同士のつもりで会話してください」と頼むと、すんなりそのモードに入れたと会話を収録していて感じた。ここに収録されている会話は「親しい人同士」の会話である。目上と目下、恩のあるなしによって、配慮の仕方や表現は当然違ってくる。
- (5) ロールプレイ調査であるが、この「即興」で会話をしてもらうことにより、話し手が気が付かない地域差、同じ地域であっても世代差や性差が現れることが観察される。談話における「新しい方言の発見」とも言える。
- (6) 役割がうまくできなかったり、途中で詰まったり、緊張して自然に会話できなかつたと話し手が感じた時はやり直しをした。
- (7) AとBは近所という設定。例えば中学生では同級生であっても家は離れている場合もある。人口密度の少ない地域ではそのようなことも多い。他の年代でも同様である。
- (8) 課題達成を目的とする談話は「開始部」「本題部」「終結部」からなる（日高2014、杉村2014他）。
- (9) 「粗忽の釘」という落語があるが、隣家の壁に瓦釘を打ちぬいてしまった主人公があわてて道を挟んで反対側の家に飛び込んでいきなり「釘が出ていないか」と物件を持ち出し、失敗したために気を落ち着かせて隣家上がりこみ、たばこをふかしたり相手の婚姻に至る事情を尋ねるという場面がある。ここではその後延々と自分の婚姻までをのりけるという展開になるが、直接釘の出所を尋ねるという物件とは関係ないことを話題として持ち出すという点では「相手の様子伺い」と共通する切り出しのパターンである。
- (10) 岸江（2018）の全国通信調査では「断り表現の意味公式」として「詫び（謝罪）、理由、不可能、共感、代案、その他（呼びかけ、フィラーなど）」の6種をあげている。大分県にお

ける今回の調査では「共感」以外はすべて見られた。筆者の行った山口大学生調査 (2016) では「共感」も見られたので大分県調査で見られなかったのはたまたま、であろう。

(11) 談話を構成するひとまとまりの発話連続。(杉村2014、2018b参照)

参考文献

- 井上文字(編)2014 『方言談話の地域差と世代差に関する研究 成果報告書』国立国語研究所共同研究報告13-4
- 池上嘉彦1981『するとなるの言語学』大修館書店
- 萩野綱男1983「待遇表現の数量化」水谷静雄編『朝倉日本語講座5 運用I』朝倉書店
- 尾崎喜光2006「依頼・勧めに対する受諾の表現」国立国語研究所『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版
- 2006「依頼・勧めに対する断りの表現」国立国語研究所『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版
- 2014「現代語の受諾・拒否に見られる配慮表現」野田尚史他編『日本語の配慮表現の多様性』くろしお出版
- 岸江信介編2016『近畿方言における配慮表現 研究成果報告(1) 一大阪市域調査篇一』
- 岸江信介2018「「断り」という言語行動にみられる特徴—全国通信調査データから—」小林隆編『コミュニケーションの方言学』ひつじ書房
- 熊谷智子・篠崎晃一2006「依頼場面での働きかけ方における世代差・地域差」国立国語研究所『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版
- 清水勇吉・石田基広・岸江信介2011「依頼に対する断り表現について」『言語文化紀要』17徳島大学
- 杉村孝夫2013「依頼の場面の談話分析—大分県方言談話資料による—」『福岡教育大学紀要第62号第一分冊 文科編』
- 2014「依頼の場面の談話分析(2) 一 大分県方言第2次調査資料による—」『福岡教育大学紀要第63号第一分冊 文科編』
- 2015「大分県方言の依頼談話—60年の変容—」『福岡教育大学紀要第64号第一分冊 文科編』
- 2017「依頼談話における配慮はどのように捉えられるか—大分市の場合—」『筑紫日本語研究2016』筑紫日本語研究会
- 2018a「体育祭審判交代依頼談話における待遇表現の性差と世代差」(松田2018所収)
- 2018b「大分県方言の依頼談話」小林隆編『コミュニケーションの方言学』ひつじ書房
- 野田尚史2014「配慮表現の多様性をとらえる意義と方法」野田尚史他編『日本語の配慮表現の多様性』くろしお出版
- 日高水穂2014「談話の構成からみた現代語の配慮表現」野田尚史他編『日本語の配慮表現の多様性』くろしお出版
- ポリマー・ザトラウスキー2009「英語と日本語の依頼表現の比較対照」『日本語表現学を学ぶののために』世界思想社
- 松田美香編2018『大分方言談話の配慮表現を中心とした地域差・世代差・性差の研究』科研研究 成果報告書

付記

本稿は、2015-2017年度学術振興会・科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究課題/領域番号 15K02584「大分県方言談話の対人配慮を中心とした世代差・地域差・性差の研究」(研究代表者:

松田美香) による調査研究の成果の一部である。

謝辞

本稿の内容は、第294回筑紫日本語研究会・第46回九州方言研究会（合同研究会2018.7.7九州大学文学部会議室）において口頭発表した。出席者の方々から種々ご質問・ご意見を賜った。本稿はそれらを踏まえて改稿した。記して感謝申し上げる。